

弥陀如来のカヤの木

高瀬弥陀前の地に樹齢六百年とも、七百年ともいわれている大きなカヤの木があります。幹は枝から下が空洞になっており、中には小さなお地藏様が祀られていると、言われています。

むかし、あったと。

毎日、夜が更けつどよ、カヤの木のこずえから読経の音がきこえてくんだ。ところが、朝、鶏の声とともに聞こえなくなるんだと。人々は、これを不思議に思ってたんだって。

そのうち、誰ともなく

「阿弥陀様が木の上に登ってお経を唱えてんだべ」と、言うようになったんだと。

こんなうわさがあってから、高瀬下坪の人らは鶏を飼わなくなったんだと。

また、代々の領主はこの木を切ると他国への国替えになるとして、恐れを敬うようになったんだと。

それからな、この木に初豆を供えると、頭痛が治るとも言われ、昔は、大豆の収穫期になると、きまってお参りする人の姿が見られたつちゆうことだ。

そんなわけで、地元の人々はいつの頃からか、このカヤの木を「弥陀如来の仏木」と呼んでいた。

いくたびか、落雷を受けた事もありますが、それでも、少しも衰えることなく、今でも元気な姿をとどめています。

おしまい

参考文献 旧南那須町「まちの民話」より